

「グラントワ・カンタート 2021」報告

◆概要

- ◇1月9日（土）オンラインセミナー②③④ オンライン上／グラントワ多目的ギャラリー
- ◇1月10日（日）フレンドシップコーラスコンサート グラントワ大ホール／オンライン上
- ◇2月27日（土）オンラインセミナー① オンライン上

【会場参加者数合計 303人 動画出演者数合計 1,066人 オンライン再生回数合計 10,829回】

例年全国各地やアジアから 2 千人以上が参加して日本語と合唱を深め、交流する「グラントワ・カンタート」。コロナ禍での開催方法を検討した結果、リアルとリモートを併用したハイブリッド方式で、オンラインセミナーとコンサートを行った。

◆オンラインセミナー

会場：オンライン上（Zoom、YouTube）、グラントワ多目的ギャラリー

① 信長貴富（作曲家）・青山恵子（声楽家）

「いい声はひとつじゃない!? ～楽曲が求める声の多様性～」

2月27日（土）15:00～16:30（1月8日の予定だったが講師急病のため延期）

【オンライン再生回数：821】

青山恵子氏が洋楽発声で日本語を歌う限界から民謡、能などを習った経験に基づいて、信長貴富氏が伝統音楽を素材として作曲した曲からポップスまでをいかに歌うか、音源や楽譜の提示、実演を交えて語った。作曲家の意図に応え、より伝わる表現を探求すると「いい声」が多様になること、曲により多様なアプローチがあることが共有された。

② 勝部俊行（島根県合唱連盟理事長）・菅野正美（福島県合唱連盟理事長）

「今こそコーラスを！～島根と福島の合唱音楽」

1月9日（土）11:00～12:30

【オンライン再生回数：744／来場者数：4】

島根県と福島県、それぞれの地域で記念碑となった貴重な音源を聞きながら、各県の合唱の歴史を振り返った。コンクールが両県での合唱活動の活発化とレベルアップに貢献し、作曲家への委嘱活動や地方発の合唱イベントから広く全国的に価値のある曲が生まれ、合唱団や声楽家が育つ土壌となってきた様子が伝わった。両県の方言の類似性も指摘された。

③ 寺嶋陸也（作曲家）・藤井宏樹（合唱指揮者）

「心に響く言葉と物語・・・合唱劇の現在」

1月9日（土）15:00～16:30

【オンライン再生回数：669／来場者数：12】

「合唱劇」というジャンルの概要から始まり、寺嶋氏作曲・藤井氏指揮による3作品の映像を交えて北原白秋や宮沢賢治の詩の特徴や取り上げる意義、演出家・加藤直、しままなぶとの協働などが語られ、合唱劇の可能性の大きさを印象付けた。脚本家、演出家、照明家などと作品を作り上げていく過程を通じて合唱団員が表現者として豊かになることが共有された。

④ 栗山文昭（合唱指揮者）・坂元勇仁（レコーディングディレクター）

「栗山文昭のコンクール～島根から挑んだ東京、そしてヨーロッパ」

1月9日（土）18：30～20：00

【オンライン再生回数：853／来場者：5】

合唱指揮者・栗山文昭が島根、東京、そしてヨーロッパを舞台に、コンクールにいかにか挑んできたかを10曲の圧倒的な演奏映像と豊富な資料を交えて語った。歌手から合唱指揮者への転向、コンクールでの連続受賞（「栗山現象」）とその後の撤退など節目で何を考えたか、その軌跡をたどることで、豊かな合唱世界が浮かび上がる濃厚な時間であった。



セミナー① ピアノ伴奏も交えた実演付き



セミナー② グラントワと福島を繋いで実施



セミナー③ 合唱劇の作品映像



セミナー④ 和やかな雰囲気です話が進んだ



オンライン環境がない方のために多目的ギャラリーで映写を見られるようにした

◆フレンドシップコーラスコンサート

会場：グラントワ大ホール、オンライン上

日時：2021年1月10日（日）12：30 開場 13：00 開演

【ホール来場者：132名、生出演者：150名、動画出演者：1,066名、オンライン再生回数：7,742】

県内の6団体の生演奏と、国内外の23団体から事前に送られた動画によるコンサート。客席で来場者が鑑賞すると同時に配信を行った。客席とオンラインの視聴者、舞台上と中国や韓国、北海道から沖縄まで全国各地の出演者が同じ時を共有し、音楽で繋がった。

コロナ禍の生活を綴る川柳27句に信長貴富氏が作曲した委嘱曲「君の川柳」は動画の形で初演。フィナーレではハレルヤを動画に合わせて会場出演者、視聴者が一緒に歌った。

多くの参加者から熱い反響が届き、配信では日本だけでなく中国、韓国、アメリカ、ノルウェー、イギリス、ラトビア、カナダから視聴があり、海をはさんで向かい合う国々と合唱で繋がるという当初からの目標の一端を叶えることができた。



グラントワ・ユース・コールの歌声で開幕



地元・益田市の合唱団ななお 初回から毎回参加



動画を事前に送った団体の映像を映写



益田市長あいさつ



益田市の姉妹都市、中国・寧波市からの動画



ソウル・モテト・ユース・クワイア



大雪の中駆け付けた松江北高等学校合唱部

委嘱曲「君の川柳」の一コマ リモートコーラスで初演



フィナーレ ハレルヤコーラスを動画と舞台、客席で一緒に歌った(指揮:勝部俊行)

◇コンサート参加者・視聴者の声（抜粋）

○合唱、歌というものは、たとえ暗く、悲しさを感じる歌詞やハーモニーがあっても、私たちに活力、パワー、エネルギーを与えてくれるものということ。合唱、歌は不要なものではないと言われてしまう時代かも知れませんが、今だからこそ、リモートであっても同じ時を共有し、気持ちを一つに歌うことの意味を感じました。(栃木県、高校生)

○私の母は、1月10日のコンサートの日、がん手術の3日後でした。1日中、病院でオンライン配信視聴。お互いもオンラインで繋ぎながら「この合唱団素敵だねー」等話していました。最高の薬だったそうです。とても元気になりました！（沖縄、出演児童の保護者）

○今年創立70年を迎える鶴岡土曜会混声合唱団が出演する「グラントワ・カンタート」をオンラインで視聴した。(中略)「厳しい」、「難しい」、「できない」、ではなく、工夫して実施する、参加する、生み出す、すがすがしさがそこにはあった。(山形県鶴岡市市長、「広報つるおか」より抜粋)

○皆様のご尽力により、団員全員が各自安全な所でこの素晴らしい合唱イベントを快適に楽しむことができました。(略)新型コロナウイルスが終息して、舞台上で一緒に演奏できる日が早く来ることを祈ります。(ソウル・モテト・ユース・クワイア事務局)